

他力本願・自力本願の兼ね併せで成就を!?

購入飼料依存型経営では 15円/kg以上の
乳価復元への引き上げを願う!!

おい

れましたか?

前月号五頁「平成二十四年次酪農経営収支決算」の表から何を読みとら

討されますことをお奨めします。

今回は、購入飼料依存型経営の「平成二十四年次酪農経営収支決算」から平成二十五年度次同決算を予想するシミュレーションをもって、広酪試算の十五円/kgとしている概要を紹介します。それぞれ、組合員の皆さんにおいても、平成二十四年度次の自己の酪農経営決算数字から平成二十五年度次を予測され、自らの飼養管理、経営管理の見直しを早期に検討されますことをお奨めします。

求める内容としました。

今回は、購入飼料依存型経営の「平成二十四年次酪農経営収支決算」から平成二十五年度次同決算を予想するシミュレーションをもって、広酪試算の十五円/kgとしている概要を紹介します。それぞれ、組合員の皆さんにおいても、平成二十四年度次の自己の酪農経営決算数字から平成二十五年度次を予測され、自らの飼養管理、経営管理の見直しを早期に検討されますことをお奨めします。

この表から何を読み取られますか?との問いかけとともに、組合員の皆さんからの乳価値上げ又は復元などに関する考えを求める内容としました。

点をあててみました。

本誌「らくのうだより四月号」では「モータまらんわ」酪農家を襲う価格高騰」と題する特集を組みました。その背景には、安倍総理のTPP参加表明による農畜産物の関税撤廃への不安がよぎり、為替相場の円安が急激に進むこと

によって、輸入粗飼料価格などが上昇するなか、どの様に対応すべきかに焦点をあててみました。

この一端として、乳価引き上げに向けて中国生

乳販連が決定した「学乳向けを除く飲用並びに発酵乳

向け用途に対して値上げ要求を七円/kgなどの紹介と

ともに、「平成二十四年次酪農経営収支決算」の表を掲載し、

この表から何を読み取られますか?との問いかけとともに、

組合員の皆さんからの乳価値上げ又は復元などに関する考えを

求める内容としました。

今回は、購入飼料依存型経営の「平成二十四年次酪農経営収支決算」

から平成二十五年度次同決算を予想するシミュレーションをもって、広

酪試算の十五円/kgとしている概要を紹介します。それぞれ、組合員の

皆さんにおいても、平成二十四年度次の自己の酪農経営決算数字から平成

二十五年度次を予測され、自らの飼養管理、経営管理の見直しを早期に検

討されますことをお奨めします。

前月号五頁「平成二十四年次酪農経営収支決算」の表から何を読みとら

れましたか?



平成二十五年次の酪農経営収支決算を 予想されましたか!?

1 平成二十四年度決算数字から 平成二十五年次の決算数字を 考察

「平成二十五年次乳価値上げ実現に向けての検討参考資料」(四〇五頁…

表1)は、平成二十四年一月一日から平成二十四年十二月三十一日迄の酪農経営に係る収支決算数字を集計したものです。この数字を基本に平成二十五年次の酪農経営収支への影響を考察しました。

考察結果

2 乳価引き上げは、生乳1kg 当たり十五円以上必要と試算

考察では、生乳生産量、経産牛頭数ともに平成二十四年度と同様とし、単純に為替相場の円安影響で飼料費などの値上げがもたらす平成二十五年次の酪農経営収支への影響を想定し、平成二十四年度の酪農経営収支維持には、少なくとも十五円/kg以上の乳価引き

3 「乳価引き上げ」よりも三十数 年前(昭和五十年代前半)の乳 価に復元を!

酪農経営の生産コストの中に、飼料費があります。その内、配合飼料の平成十八年度第2四半期価格はトン当たり四万二千六百円で、以後、暫時上昇を続けて平成二十年度第3四半期では

上げが必要との試算になりました。これは、あくまでも、平成二十四年度の酪農所得を維持するためのもので、経産牛一頭当たり十万六千七百五十六円を維持する単価であります。

広酪では、全酪連の開発した「酪農家経営管理支援システム(DMS)」を利用される酪農家の平成二十四年度経営データ、また、広酪の融資先から提出を求めた平成二十四年度決算データをもつて試算を加えましたが、最低で十三円/kg、最高で二十円/kgの乳価引き上げが必要との結果になっております。

六万七千六百円と、実に一・五八倍(実質負担は一・四倍)にまで上昇しました。この上昇を補う措置として、配合飼料の異常価格差補填金、通常価格差補填金、同追加補填金の交付が行われたものの、平成二十五年第1四半期の実質酪農家負担額は平成十八年度第2四半期に比較して一・四二倍に上昇しております(五ページ表2参照)。

4 世界市場原理に晒される 酪農業

過去に配合飼料等価格が上昇した原因は、世界穀物相場の高騰、産地の干魃や豪雨、リーマンショック、投機マネーの介入、新興国の取引需要量の増加などがあり、常に世界市場原理等の影響に晒される現実が浮かびあがって来ます。

こうして国内の酪農経営が被った影響は、酪農家個々ではどうしようも出来ないとして、乳業者には乳価引き上げを、消費者にはその上昇分の価格転嫁をお願いする行動にあたりました。

その代表的なものとしては、平成二十年八月には、飼料高騰対策等全国代表者集会、平成二十年十月には原油・肥料・飼料高騰対策広島県緊急集会への参加とともに、ラジオを通して消費者等への理解醸成活動を積極的に展開しました。



(H20.10.28 酪農業の窮状理解を求める行動の様子)

向けての試算(広酪版) 30数年前の飲用乳価118.216円に復元

約15円/kgの乳価値上げ要求が必要か? 約8億円が必要

平成25年は、生産コスト上昇が酪農経営を襲う

2 【考察】

53,800,000kg × 15円/kg
= 807,000千円の財源が必要

記号	項目	データ	備考
【現況】			
A	経産牛頭数	41頭	
B	生乳生産量	316トン	
C	経産牛1頭当たりの出荷乳量	21.1kg	
D	平均乳価	106.03円	
E	乳飼費	52.2%	
【厳しい変動要素】→為替円安 穀物・粗飼料相場の上昇			
F	飼料費値上げ率 55円→70円/kg	1.27倍	H20第4四半期単価とH25第1四半期単価の比較(粗飼料価格も含みかつ、安定基金は除外)
G	値上げ後の飼料費総額	22,214千円	④*F
H	飼料費値上げ差額	4,723千円	G-④
I	飼料費値上げ後の乳飼比は?	66.3%	
J	乳価値上げ要求単価は?	14.94円	H/B

乳飼比増高率
127.0%



為替相場の円安、穀物相場、原油相場の激高には耐えられない。
ご主人が酪農経営を廃業すれば、私の生命はどうなるの!!
乳価を上げて

3 平成25年暦年決算収支予想

(単位: 千円)

行No	経費構成率	金額	経費	コスト上昇予測	収入	金額
1	1.3%	490	①粗税公課		①販売金額	40,721
2	0.0%	1	②種苗費		a生乳販売金額	33,512
3	1.7%	636	③素畜費		b家畜販売等金額	7,209
4	59.6%	22,214	④飼料費	↑	②家事消費金額	157
5	0.4%	134	⑤農具費	↑	③雑収入	1,092
6	3.8%	1,425	⑥農業衛生費	↑	(X) 収益合計	41,970
7	3.7%	1,370	⑦諸材料費	↑		
8	1.2%	444	⑧修繕費	↑		
9	3.8%	1,399	⑨動力光熱費	↑		
10	0.3%	104	⑩作業用衣料費			
11	5.1%	1,902	⑪農業共済掛金			
12	11.9%	4,443	⑫減価償却費			
13	9.2%	3,413	⑬荷造運賃手数料	↓		
14	3.0%	1,107	⑭雇人費			
15	1.2%	434	⑮利子割引料			
16	2.7%	1,000	⑯地代・賃借料			
17	0.2%	84	⑰土地改良費			
18	2.8%	1,026	⑱廃牛売却原価			
19	0.5%	187	⑲事務通信費			
20	0.3%	101	⑳図書費			
21	0.0%	13	㉑固定資産除却			
22	0.2%	80	㉒雑費			
23	112.7%	42,007	(Y) 小計①～㉒+			
24		1,301	㉓経費から差し引く育成費用	↑		
25		40,706	㉔計=(Y)-㉓			
26		1,264	(Z) 差引金額(X)-㉔			
27		960	㉕専従者給与	↓		
28		304	㉖青色申告特別控除前の所得金額			
29	所得率↓	650	㉗青色申告特別控除額			
30	-0.8%	-346	㉘所得金額㉖-㉗	↑		

○左記の状態で償還返済もあるし...
○キャッシュが廻らないよ～

商品名	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	価格上昇率 (H16=100%)
①アルファルファーヘイ 上物	38.0	45.3	51.5	46.7	47.9	57.8	50.5	48.5	58.0	68.0	178.9%
②イネアストロー	33.8	25.5	40.0	40.0	34.4	30.5	30.8	34.0	35.0	56.0	165.7%
③オーツヘイ(西オースト)A(GILLETT)	41.0	35.9	54.6	54.0	48.9	52.0	50.0	57.5	56.5	66.0	161.0%
④スーダンハイ	45.8	47.2	51.4	52.6	45.8	54.6	55.0	49.5	56.0	65.0	141.9%
⑤チモシーヘイ US ダブル	53.0	59.0	59.0	60.4	57.8	58.8	59.0	60.5	61.5	74.5	140.6%
⑥ハードフェスキュー	38.8	45.2	45.7	45.7	40.5	35.4	35.0	37.5	40.5	58.0	149.5%
単純平均価格	41.7	43.0	50.4	49.9	45.9	48.2	46.7	47.9	51.3	64.6	154.8%

(単位: 円)

H20年対比では1.4倍!!

○今月の表紙

▼今月の表紙写真は、ウグイスの「ホー ホケキヨ」と心地よい歌声に耳を傾けながら五月初旬に頭角を現した「竹の子」にカメラを向けショットしたものです。

▼撮影日、今年初めての竹の子との対面で、夕食には竹の子料理が食卓を飾りました。

▼旬の味を堪能する喜びから幸福感が沸いて来ました。

▼そうそう、今年は、なんとなく竹林で頭角を現す竹の子の数が少なく感じられませんでしたか?

▼平成二十五年の気象状況は何か変な感じがしませんか?

▼日本全国の気象状況を見ると、五月の連休中に北海道帯広市では積雪を記録しました。

▼西日本の四月から五月中旬迄をみると、真夏日のように三十℃以上の気温を記録する日もあれば、降霜の日もありました。

▼五月八日の早朝、北広島町(旧芸北町)ではバケツ内の水が凍る寒さとなり

表 1

平成25年度乳価値上げ実現に

表 2 配合飼料価格の変動と配合飼料安定基金制度による補填

	区 分	配合飼料価格①	左記の内実受益者負担の配合飼料価格②	異常価格差・通常価格差補填金等による制度補填金③	(H18 第2 四半期=100％対比) ①に対する比較	(H18 第2 四半期=100％対比) ②に対する比較	
H18	第2 四半期	42,600	42,600	0	100.0%	100.0%	
	第3 四半期	44,300	42,700	1,600	104.0%	100.2%	
	第4 四半期	49,800	43,300	6,500	116.9%	101.6%	
H19	第1 四半期	53,030	44,830	8,200	124.5%	105.2%	
	第2 四半期	55,030	46,580	8,450	129.2%	109.3%	
	第3 四半期	54,100	46,600	7,500	127.0%	109.4%	
	第4 四半期	58,100	47,800	10,300	136.4%	112.2%	
H20	第1 四半期	62,800	49,700	13,100	147.4%	116.7%	
	第2 四半期	64,800	57,400	7,400	152.1%	134.7%	
	第3 四半期	67,600	59,950	7,650	158.7%	140.7%	
	第4 四半期	55,700	55,700	0	130.8%	130.8%	
H21	第1 四半期	52,100	52,100		122.3%	122.3%	
	第2 四半期	55,000	55,000		129.1%	129.1%	
	第3 四半期	53,600	53,600		125.8%	125.8%	
	第4 四半期	53,200	53,200		124.9%	124.9%	
H22	第1 四半期	52,500	52,500		0	123.2%	123.2%
	第2 四半期	52,500	52,500			123.2%	123.2%
	第3 四半期	52,500	52,500			123.2%	123.2%
	第4 四半期	55,950	52,700	3,250	131.3%	123.7%	
H23	第1 四半期	58,100	53,400	4,700	136.4%	125.4%	
	第2 四半期	59,500	54,800	4,700	139.7%	128.6%	
	第3 四半期	58,650	56,550	2,100	137.7%	132.7%	
	第4 四半期	56,350	56,350	0	132.3%	132.3%	
H24	第1 四半期	57,500	57,500		135.0%	135.0%	
	第2 四半期	58,500	58,050		450	137.3%	136.3%
	第3 四半期	63,250	57,800		5,450	148.5%	135.7%
	第4 四半期	63,250	58,950	4,300	148.5%	138.4%	
H25	第1 四半期	66,450	60,650	5,800	156.0%	142.4%	

購入飼料依存型経営

国への要求も必要だ!!
所得補償

1 平成24年暦年決算収支

(単位:千円)

行No	経費構成率	金額	経費	収入	金額
1	1.3%	490	①租税公課	①販売金額	40,721
2	0.0%	1	②種苗費	a生乳販売金額	33,512
3	1.7%	636	③素畜費	b家畜販売等金額	7,209
4	46.9%	17,491	④飼料費	②家事消費金額	157
5	0.4%	134	⑤農具費	③雑収入	1,092
6	3.8%	1,425	⑥農業衛生費	(X) 収益合計	41,970
7	3.7%	1,370	⑦諸材料費		
8	1.2%	444	⑧修繕費		
9	3.8%	1,399	⑨動力光熱費		
10	0.3%	104	⑩作業用衣料費		
11	5.1%	1,902	⑪農業共済掛金		
12	11.9%	4,443	⑫減価償却費		
13	9.2%	3,413	⑬荷造運賃手数料		
14	3.0%	1,107	⑭雇人費		
15	1.2%	434	⑮利子割引料		
16	2.7%	1,000	⑯地代・賃借料		
17	0.2%	84	⑰土地改良費		
18	2.8%	1,026	⑱廃牛売却原価		
19	0.5%	187	⑲事務通信費		
20	0.3%	101	⑳図書費		
21	0.0%	13	㉑固定資産除却損		
22	0.2%	80	㉒雑費		
23	100.0%	37,284	(Y) 小計①～㉒		
24		1,301	㉓経費から差し引く育成費用		
25		35,983	㉔計=(Y)-㉓		
26		5,987	(Z) 差引金額 (X) - ㉔		
27		960	㉕専従者給与		
28		5,027	㉖青色申告特別控除前の所得金額 (Z)-㉕		
29	所得率	650	㉗青色申告特別控除額		
30	10.4%	4,377	㉘所得金額㉖-㉗		

生乳の用途別販売の見直しは出来なかな～。

せめて、飲用 加工の2本立て取引に

4

輸入乾牧草の価格推移(広酪供給価格の変動)
単価は、1kg当たりの価格



ました。
酪農家の圃場では、イタリアンライグラスが栽培されていますが、生育具合が悪く、刈り取り時期が遅くなる等の影響が出ています。
為替相場の円安転換から輸入粗飼料価格の値上げが気になります。
▼牧草を栽培される酪農家において、良質で多量の牧草収穫となりますことを願ってやみません。
▼冒頭の撮影から、寒さ等様々な環境変化の刺激を受け、土の中から誕生する「竹の子」の力強さを実感しました。
▼「竹の子」の誕生から「グヨクヨするな」「フラフラするな」「グラグラするな」「ボヤボヤするな」「ペコペコするな」の言葉が重なり脳裏をかすめました。

特集 牛乳の適正な価値と値段を考えて

現在の酪農経営の窮状は、平成二十年度当時の再来と云つても過言では無いと考えられます。

生産者乳価を考えると、乳価値上げ又は乳価引き上げの文字が躍ります。昭和五十年代前半期における乳業者との間の乳価取引は、飲用仕向け価格百十八・二六円(生乳1kg当たり)、加工仕向け価格六十五円程度の二つの区分で設定されていましたが、現在では、飲用仕向け、学乳仕向け、発酵乳仕向け、生クリーム仕向け、チーズ仕向け、加工仕向けの六区分の用途取引価格となっております。

酪農家側からすれば、『乳価値上げ又は乳価引き上げ』の言葉は不適切で、『乳価復元』が適切との声も聞こえてきます。

確かに、乳業者側も市場競争原理の厳しい環境下で、製造コスト、原料調達コストなどの引き下げに努力を重ねられ、株式会社としての使命達成に尽力されている状況を察することが出来ます。

酪農家にとりましては、外的要因(為替相場による円安進行など)に晒されての生産コスト上昇分は、末端消費者

にご負担(価格転嫁)を願うことへの理解醸成が重要ではないでしょうか。

安倍総理の景気浮揚策・デフレ脱却のかけ声によって為替相場が反応し、五月十三日現在で一ドル百一円を超えました。今後、更なる円安誘導は、輸入原料に依存する酪農経営にとってはますます厳しい経営環境となることが想像されます。

消費者、乳業者、酪農家等の営む事業や生活において、関係各位に改めて「牛乳の適正な価値と値段を考えてほしい」と願い、広酪の試算では、少なくとも生乳1kg当たり十五円以上の値上げをお願い出来ればとの考えを整理しております。

4 「他力」と「自力」のミックスで 道筋を・・・!

平成二十四年度の生乳受託実績数量は五万三千八百トンで、これに十五円/kgを乗じると八億七百万円の財源が必要となりますが、これをどうして確保するかが課題となります。

中国生乳販連では、乳価取引交渉に

あたり、取引乳業者に対して七円以上/kgの乳価引き上げを求めています。仮に、この要求乳価が成就したと考えたとき、広酪試算の乳価引き上げまで八円/kgが不足します。

この差額を、酪農経営の所得補償等、国への施策を求めるとともに酪農家自らによります経営リスクの排除も重要では無いでしょうか。国の施策では、為替相場の円安振れによって輸入粗飼料価格上昇分を補填する制度の創設を一考願うことが出来ないでしょうか。

また、酪農家がどうにも出来ない生産コスト上昇分を末端価格に上乗せ転嫁等が出来る仕組みの構築を行えないものでしょうか。既に、この辺りについては、日本酪農政治連盟において政策実現への検討が行われているようでありますが・・・(関連記事二十七頁)。

乳価交渉に関しては、指定生乳生産者団体の中国生乳販連の行動に大いに期待し、広酪としても同連の求めに応じて積極的に関与して行くことが重要と考えています。

前述のDMS利用の酪農経営収支からも、診療費が突出して高い方がおられます。また、飼料費を除く経費支出

が高い方がおられます。酪農家の皆さんには、この様に厳しい酪農経営環境であるからこそ現状データからその実態を把握し、経費抑制が可能な箇所からの見直し改善も必要と感じてほしいと考えますが如何でしょうか。

将来に向けて酪農経営を継続して行くためには、将来の投資も見据えた中で、一定の酪農所得が確保されるよう生産コスト上昇分の価格転嫁の実現とともに、国からの施策実現など「他力」に頼る(お願い)ことと、飼養する乳用牛の事故廃用の低下にあたり飼養管理の見直しと無駄な費用支出など「自力」による対処を兼ね併せることこそが、今の酪農窮状の打開になるのでは無いのでしょうか。

勿論、広酪としても、平成二十五年度の運営にあたり、管理費、事業費などの支出抑制を図るとともに、平成二十五年度の乳価構成による組合員負担について、生乳1kg当たり十五銭五毛の減額を実行します。

以上、記載した内容等に関して、組合員の皆さん、又は、関係団体から提案や意見がございましたらお聞かせ下さい。お待ちしております。